

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100329		
法人名	社会福祉法人 明照福祉会		
事業所名	グループホーム明照		
所在地	宮崎市佐土原町下田島4575-1		
自己評価作成日	平成25年9月10日	評価結果市町村受理日	平成25年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosvoCd=4590100329-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

歴史ある街の中にあり、自然にも大変恵まれています。のどかな畑に囲まれ、施設からは尾鈴山を優雅に見る事が出来ます。理念にも掲げているように、利用者様を地域の一員とし、交流(地域祭り・施設見学)や隣接するデイサービスセンターや保育園との世代、施設を超えた交流の機会、そして運営推進会議を通じて、縁を大切に間わりを深めています。また、ご家族も同様に日常的な面会や季節感のある合同行事の機会を多く持つ事により、今まで以上に絆を深めています。利用者様の今までの生活歴や尊厳を大切に、「あるがままの姿」をその人らしさと捉え、その方の力(強さ)に着目し、出来る事の継続に留まらず拡大への実現を目指し、その素晴らしさを皆で共感、励まし、助け合う事でかけがえのない家族生活を支援させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた広い敷地内に、同じ法人が経営するグループホームをはじめデイサービスセンター、保育園等があり、連携して協力しながら運営している。保育園児の来訪やデイサービスセンターに通う知人、友人との交流、地域のボランティアの定期的な来訪等、地域との関係性強化を積極的に行っている。また、毎月モニタリングを行い、本人や家族の意向、要望をとり入れ、職員や関係者の意見やアイデアを生かした利用者本位の介護計画を作成し実践している。日常的な散歩や月に1回以上のドライブ、外食、買物に出かけるなど、利用者や家族の目線に立ったきめ細かなケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議(月/2)内で、理念及び仕事姿勢指針を唱和し、職員内の意識統一化を図っている。また、仕事姿勢指針においては、各職員で毎日のフィードバック(振り返り)を行い、毎月の反省点、今後の目標について報告し、実践に向けて協議している。(職員がどのような目標について、取り組んでいるのか分かるように用紙を作成した。※他職員からの客観的な意見の観点から)。	理念の共有と実践のために、職員は毎日の仕事を振り返り、仕事姿勢指針に基づき、自己評価をしている。その努力が心のこもった温かいケアの実現につながっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア団体(舞踊、大正琴)から協力を得ながら、定期的に交流が図れている。外出行事の中でも、地域の祭りや施設見学(新聞社、工場)を通じて交流が図れている。地域の方々立ち寄って頂く観点では、まだまだ機会が少ない。	近所の人々が散歩の折りに花を土産に立ち寄り一緒にお茶を楽しんだり、保育園やデイサービスセンターとの交流、地域の祭りや行事に参加するなど、地域とのつながりを深めている。また、毎月地域のボランティア団体も来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の議題として、介護教室(認知症の理解、介護保険制度概要)を実施。出来るだけ一般の方にも、分かり易いように、Q&A(一問一答方式)を取り入れながら解説を行った。今後の成果に期待。～民生委員の方々地域に置いて相談されるのでは?と仮定した内容		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の事業計画に基づき二か月に一回開催し、施設状況報告や事業所が抱える問題、課題などの他に、新たに議員主体とした事前アンケート調査を行い、普段疑問に思われる高齢者福祉に対して回答していく事に取り組みながら、より理解を深める事に取り組んでいる。	地域の理解と協力を得るために、会議の中に介護教室をとり入れ、認知症の理解を深めるなど、充実した会議となっている。防災訓練等についても話し合いがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	宮崎北地区施設ケアマネ研修に出席し、情報交換を行っている。制度、運営上で問題があるときは、市町村と積極的に連絡を行い確認、助言を頂いている。また、地域包括支援センターに運営推進会議の参加を依頼し、協働関係の構築を図っている。今年度は実地指導の機会に恵まれて、日頃疑問に感じた事などの意見交換が図れた。	市の担当者とは、運営状況の報告や課題等について、相談や指導を受ける関係を築いている。市が開催する研修会等には、積極的に参加して協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを職員会議内の内部研修として実施し、理解を深めると共に、身体拘束をしないケアの実践を行っている。玄関の施錠や柵(サイドレール)については、利用者のリスクを熟知し、安全面を図りながら原則行っていない。	職員会議や内部研修で、身体拘束の弊害について理解を深め、身体拘束のないケアに取り組んでいる。日中は玄関や居室には施錠をしていない。身体拘束マニュアルを作成している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	基本理念にもあるように、入居者を「人生の先輩」として、言葉使い、丁寧なケアを行うように徹底している。また、内部研修のテーマとして、職員内の理解を深めながら防止する事を徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の入居者において、家族が身元引受人になっているので問題はないものの、高齢者福祉の制度の理解といった観点からも、研修に参加し、復命報告を通じ職員内の周知を図っている。(しかし実践では活用する機会が少ない為に、周知出来ていない所もある。)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人や家族が理解し易いように、契約書や重要事項説明書を丁寧に説明し、また、疑問、質問等がある場合は詳しい説明を行い、理解・納得を得られるように図っている。遠慮なく何でも質問できる家族との関係性も築けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、書面により、生活状況や心身状況を報告及び家族との合同行事の参加の依頼も行っている。その事を受けて疑問に感じた事等は、直接職員や管理者に訪ねられる事もあり納得頂く説明を行っている。また、苦情受付箱を玄関前に設置、苦情要望書を作成し、気軽に意見等を受け入れる機会を設けている。	年に数回、家族会を開き、利用者や家族の意見や要望を聞く機会を設け、運営に反映させている。また、毎月手紙で利用者の近況報告や心身の状況を詳しく報告し、家族との信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回の職員会において、運営に関する職員の意見や提案を求める事や職員内のチームワーク、協調性が増進出来る機会を設けている。また、年一回、事前の調書を踏まえた理事長との個別面談が行える機会を設けている。	月に2回、職員会議を開き、職員の提案や意見を聞く機会を設け運営に反映している。また、年に1回、理事長が全職員と面接し、個人的な要望等も聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に職員の勤務状況や個々の能力や努力を把握している。就業時間内に労働が行えるように努力、指導している。給与面や福利厚生面においても、職員がやりがい、向上心をもてるような職場環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップを目的に、各自、自分の興味のある研修内容を選択し、最低年一回以上の機会を設けている。また、法人単位での内部研修を実施している(参加率も高い)。内部の研修として、職種別の研修にも企画及び参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、質の向上や情報交換を図っている。法人内では、職員同士の交流(互助会)も積極的に参加し、仕事の悩み等も分かち合える機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面接や相談、入居初日など、本人、家族に十分に話を聞いた上で、質の高いサービスを提供出来るように努めている。また、新入居者については、生活状況、心身状態の情報収集を行い、情報の共有化を踏まえたケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の意向と家族の意向が異なるケースも多々ある為に、専門的な立場で、分かり易く説明、助言を行っている。時間をかけながら、必要な支援を見極め、入居者、家族に相談援助を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームとして行える支援内容、支援状況を丁寧に分かり易く説明し、入居者の可能性(出来る事)や強さに着目した生活を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者は、お互い思いやれる関係性を目指す。また、その人のらしさを知る為に、時間をかけて関わる時間を大切にしている。行事などは、利用者は勿論だが職員も一緒に楽しめるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料金については、原則現金入金にして、面会を通じてグループホームに足を運んで頂ける機会を増やしている。また、月に一回請求書と生活状況(ラブレター)及び写真を同封し、入居者と家族との心の距離が離れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方(友人)や親戚が隣接している事業所を利用している方もいるので、積極的に交流を図っている。また、外出行事の一貫として、近所への買い物へ行く機会も図れている。	なじみの関係が途切れないよう、自宅訪問や近くのなじみの商店に買物等に出かけている。隣接するデイサービスセンターに通う知人や友人とも交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が共に生活を送りながら、良い関係性が保てるように援助している。また、生活や価値観の違いによって小さなトラブルはあるものの、早期に気がつき、介入することにより、関係性が崩れないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時は、出来るだけ面会の機会を図り、励ます内容の色紙等を作成し、プレゼントしている。契約が終了しても、縁を大切にしながら状況を見守っている。また、そのご家族との縁も共に大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な何気ない会話から、本人が望まれている生活や自分の主張を確認しながら、生活の在り方を考えている。職員会議内でも、担当職員の意見を参考にケアマネジメントしている。	利用者に寄り添った日々のケアの中から、思いや意向の把握に努めている。家族や関係者からの情報も活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を大切に、馴染みのある生活用品を出来るだけ持参し、環境面に配慮に努めている。入居時、入居時以降も家族から情報の収集を行い、記録、申し送りノートに記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングにて、その人らしい生活、ケアが行われているのかを担当職員が確認して、職員会議内で検証している。毎日の変化。考察(気づき)を着目し、今後のケアの在り方を考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で、各担当職員が中心になり、計画に基づいたケアが行えているのかの評価を行っている。また、全職員で協議を行い、必要に応じた計画の見直しや変更もを行っている。	毎月モニタリングを行い、課題やケアのあり方について検討し、本人や家族の意向や要望をとり入れ、職員や関係者のアイデアを反映した介護計画書を作成している。見直しは状況に応じ、随時行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録では、独自の記録様式を用いて、細かな状況の変化や気づきを記載出来るようにしている。しかし、記録のスキルや洞察力、観察力の足並みが揃っていない為に、十分な情報の共有が行われていない。今後は、内部研修、外部研修を通じてスキル向上を図りたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃の生活の中から、ニーズの把握(利用者の声)を大切に努めている。出来るかぎりその希望に応じる事が出来ていると考える(行きたい場所、食べたい物)。行事等の職員体制にも安全に配慮した人数の確保が出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体(舞踊、大正琴)から協力を得ながら、定期的に交流が図れている。運営推進会議において、利用者と一緒にレクリエーションや食事介助の協力を得ながら実施や理解が得ることが出来た。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への通院介助及び定期受診は施設で対応している。家族の協力要請も行ってたが、日頃の状況を把握している施設での対応が望ましいとの結論あり。また、緊急を要する状況や定期受診時は協力し、家族同行が行えている。	本人や家族が希望する医療機関で受診できるよう支援している。受診は職員が同行し、利用者の健康状態等の情報を提供している。緊急時や定期検査は、家族同行で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な判断については、看護師の指示を仰いでいる。また、緊急時に備えて、24時間オンコール体制での対応を行っている。また、少しの変化でも気が付けるように観察力、洞察力の向上を図っている(少しの変化でも、バイタルを測定する習慣が出来ている)。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、必ず医療機関へ同行し、情報(生活状況、心身状況)を提出して連携を図っている。また、退院時についても状況に応じてカンファレンス会議の開催を要望し、情報提供して頂き、健康面について安心した生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの支援、指針についての考えも定期的に調査して把握している。しかし、現段階では看取りについてのソフト面、ハード面の環境が整備出来てるのが課題である。また、医療機関だけの協力支援では、対応しきれないケースも予測されるので、地域の訪問看護ステーションとの連携を図る必要がある。	重度化した場合の対応については、看取りに関する指針を作成し、本人や家族に説明している。ただ、協力医療機関や職員を含めた関係者との連携等で対応方針の共有が十分とは言えない。	本人や家族と十分話し合い、協力医療機関や関係者と連携を図りながら対応方針を共有し、事業所の力量に応じた最大の支援方法を検討し、それを共有する取組を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修として、2か月に1回緊急時対応を行っている。繰り返し実施する事により、実践力を図りたいが、現段階では習得できている状態ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を行っている。今年度から、夜間時の災害時対応として、夕刻(暗闇時)に行う事で、より実践に近い状況で行っている。また、そこで新たな課題もみえてきている。地域住民と共同の訓練は、運営推進会議等で提案しているが、まだ実践には至っていない。	月に1回、防災避難訓練を行っている。夜間を想定した避難訓練も行っているが、地域との協力体制がまだ築かれていない。	夜間の災害の場合は、職員1人の対応では限界があるので、避難訓練に地元消防団や地域住民の参加等、協力体制を築いてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	必ず職員は入室際や所有物等の取り扱いでは、本人の了解の下で行っている。また、利用者に対しての言葉使いや態度に対しても、尊厳や敬意を持つての言葉を配慮している。	利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応がないよう、細心の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分で選択できる、能力を活かせるように、理解し易い説明を行うように努めている。内的環境、外的環境の整備を行い、利用者本意に自己決定が出来るように努めている。それでも自己決定が困難時には、家族に連絡を取り決定を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の行事や活動は施設側が準備、計画を行っている。参加を図っているが、決定は、利用者主体で行えている。その他、就寝及び起床時間や食事の形態、摂取時間帯等、各利用者の希望に応じて対応が行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着用する衣服については、利用者の意向を優先している。外出時はその衣服が場所、気候に適しているのか、職員が助言を行っているケースもある。美容室についても、利用者の希望を聞きながら、定期的に招いている。利用者は楽しみにされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の補助を職員と一緒に楽しみながら行っている。また、調理教室として、月2回季節感のある食事を調理できる機会を設けている。作る喜び、食べる喜びを感じてもらいながら、楽しい雰囲気作りにも配慮している。	利用者の好みに配慮した新鮮な食材をとり入れたメニューとなっている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで、会話をしながら楽しく食事をしている。月に2回、調理教室を開き、畑で収穫した食材を調理し、利用者を楽しんでもらえるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量及び、食事摂取量を支援経過記録を活用し把握している。また、健康面に配慮しながらの確認に努めている。また、食事の偏りがある時は、時間帯を変更しながら栄養を確保してもらえるような柔軟な対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に設置してある口腔ケアチェック表を活用して、毎食後の口腔ケアが行えている。また、義歯使用の方は、必ず毎晩義歯洗浄を行い、口腔内の清潔を図っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握して、トイレ誘導することにより、失禁予防に努める。また、排便については、不穏、不快に陥る要因ともなるために、把握しながら、適切な対応(下剤、緩下剤、腹部マッサージ)に努めている。夜間の排泄状況においても、可能な限りトイレ、ポータブルトイレを使用しての排泄を目指している。	排せつチェック表を活用して、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、できるだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。夜間についても、トイレでの排せつを目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	積極的に水分量の確保に努める事や10時のおやつ時の乳製品の摂取により、自然便通の働きを活性を行っている。また、便秘症の方は、主治医に相談しながら薬の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別による入浴を実施することにより、利用者のペースで入浴を楽しむ事が出来ている。また、入浴前には、必ずバイタルチェックを行い、安全面にも配慮している。「今日は入浴したくない」との意見があれば、柔軟に翌日の実施などの対応を行っている。	入浴は基本的には週3回としているが、希望があればいつでも入浴ができるように支援している。入浴嫌いの利用者には、タイミングのよい対応や言葉かけの工夫、翌日に延ばすなど、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠に繋げる為、適度の疲れを持つよう可能な限り、身体を動かす活動を積極的に実施している。眠剤も出来るだけ使用しないような共通認識を職員内で持ち、主治医と相談した上で使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に服薬管理を行っている。病院の受診時に、薬剤の変更があれば、申し送りノート、病院受診表を活用し、情報(副作用についてのリスク)の共有を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者によっては、趣味や楽しみを活かしなが対応が出来ている。しかし、全員の利用者が出来ていないので、今後の課題であり、個別支援の充実化に努める今後の課題はあり。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の影響が少ない時は、出来るだけ、散歩やドライブなど外出が出来る機会を提供出来ている。また、月一回以上は、計画を立てて、外出行事を楽しんでいる。しかし、周辺症状や体力的なものから、実施出来ない方も多々ある。	天気の良い日には、敷地内や近隣の散歩を日課としている。月に1回以上は、計画的に遠出のドライブや外食、買物等に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理については、紛失後の損害賠償のリスクもある為に、一定額を預かり金として管理している。しかし、個人の物品を買う時は、可能な限り利用者へ、レジで金銭の支払い、お釣りの受け取りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望があれば、電話の支援を行っている(家族には事前に協力要請を行っている)。直接電話で会話が出来ない方は、代理支援を行っているが、基本的に本人が話せるように支援。また、行事の一貫として年賀状や暑中見舞いのハガキ作成にも取り組んでいる。記入が困難な方は代筆して対応。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁画やオブジェを置き、環境整備に努めている。また、心地の良い環境で過ごせる為に、馴染みのある歌やテレビの映像を楽しむ事が出来ている。共有スペースに設置してある空気清浄器により、室内の消臭に努めている。	共用の空間は、採光、換気、湿温に配慮し、天井には天窓があり明るく、利用者が居心地良く過ごせるように工夫している。玄関には職員の生けた花が飾られ、季節感をとり入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その日の活動に応じて、テーブル2台を多目的に用いている。利用者の能力、精神状況に応じて、ユニット形態にて使用することもある。また、利用者間でトラブルに繋がらないように、環境整備や早期介入に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には集団での活動を楽しむ事を目的として、居室で過ごす時間の減少に努めている。また、自室で過ごす事を希望されている方は、本人が意向を尊重出来るように支援している。自室の環境面は本人、家族と共同で環境整備(模様替え、飾り)に努めている。	家族と相談しながら、本人が希望する使い慣れた家具や仏壇、写真等を持ち込んでいる。家族と一緒に、本人が安心して居心地よく過ごせるように、居室の模様替えも行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者によっては、ある特定の物があると落ち着かれる方(安心される方)も居て、その物を側に置いていることにより、心地の良い環境を提供に努めている。		